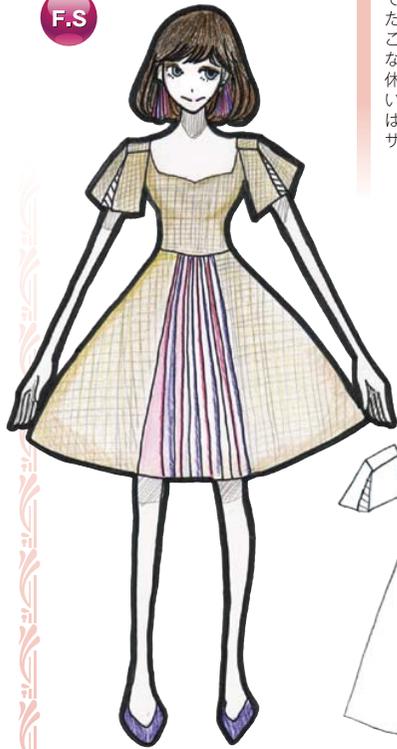


タイトル

## 【diary】

F.S



製作にあたって

自分を見つめなおし、自分探しができるようなものがつくれたら良いと思い、イメージしたのがこれまでのスケジュール帳です。その時自分は何をされていて、どんなことを思ったのか、スケジュール帳をみたらすぐに分かります。また、これから自分になっていく、すべての事を書き足すことができると思い、ここからイメージをはじめました。布はウール×麻を使い、スケジュール帳のようなマス目がある生地になります。色はうすいクリーム色地で月曜から土曜を青、休日の日曜を赤にします。スケジュール帳の表紙のように固い部分も表現したいので、糸は硬めのものを使用し、全体的にパリッと仕上げます。服のデザインは中央の所は布のつくりを少し変え、青と赤のしおりになっています。アクセサリも雰囲気合うものを作りたいです。

Image

B.S



## 当初のイメージと製作した素材との比較

デザイン画を書いた時点では、もっと色味のないものを想像して作っていかうと思っていましたが、先生のアドバイスやイメージのとらえ方を聞いてから、もっと色を使ったりしてイメージを広げてみました。カレンダーそのもの！と思える生地ができてすごく満足しています。触り心地もしっかりとっていて、なつかしい雰囲気ができてよかったです。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

織り糸の繊維の比率を変えることや、織りの仕組みなど、授業で習ってはいたが上手くイメージできていなかったことがすごくクリアに頭の中に入ってきて、実践を通して理解を深められました。全部が初めてのことであったので、手探り状態でした。イメージを形にすることが難しかったです。

●協力/ (株)ソトー、東和毛織(株)、橋本毛織、森保染色(株)  
(順不同)

W70%、R30%

タイトル

## 【絵画をまとう】

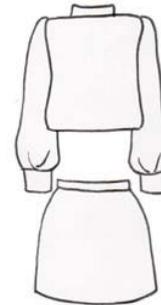
F.S



製作にあたって

私は、2種類の生地を製作したいと考えています。1つ目の生地には、画家のモネのキャンパスに横溢する、繊細で柔らかな光を表現したいです。この光とは自然の中から生まれるあたたかさのある光りのことで、影と存在するものではありません。題材にするのは「睡蓮」という作品です。生地全体を睡蓮が浮かぶ水面とイメージして、その水面部分に、反映された風景の移ろいゆく色調や色彩や絵肌を表現したいです。モネは色の重なりから、優しく明るい光を生み出しています。作品を近くで見ると色の重なりから表面に凹凸がありました。「水」の表現だからといって素材自体に軽さは重要ではなく、素材デザインとしてウールの使用を考えています。この生地はそこに反映された光の風景として細い糸状の素材を複数色重ねて表現します。この生地は、自然の風景をイメージしているので、天然繊維のみを使用して製作したいと考えています。2つ目の生地は画家が使うパレットをイメージしたものです。ガーメントの袖口やポケット口といったアクセント部分として使用します。絵の具をチューブから出したままのイメージでしたが1つ目の生地とのバランスを考え、中彩度くらいの色で表現したいです。毛羽立ちが少なく、プリント生地のような、色にしっかりと鮮やかさが残るようにしたいです。

B.S



①1つ目の生地

ベースの生地の上から色を重ねイメージす。色の境目はぼかしの様には、きりどせすに仕上げたいです。パレットのような色のついた細い糸状の素材を重ね7枚の布にします。

②2つ目の生地

パレットのイメージを、土台となる生地にてパレットのような加工をして色かきは、より分かるようにします。

## 当初のイメージと製作した素材との比較

最初は色の重なりを生地を重ねる事で表現しようと考えていましたが、糸をかすり染めにして、1本に複数の色を使用する事で色の重なりを表現しました。ひらひらとした糸も織り交ぜる事で、睡蓮の花びらも表現できました。実際の絵画のように優しく柔らかい雰囲気に仕上がりました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

直接、事務所にいかせていただいて、たくさんの生地を見る事ができ、たくさんの織り方や加工の仕方がある事がわかりました。これからの仕上げの作業として、チェックの柄の中にある間の糸を切る作業があるので、ミスをしないうように気をつけたいです。

●協力/ 鶴岡毛織、大倉染工、茶仙染工(株)、三星染整(株)  
(順不同)

W93%、N7%

タイトル  
【藤】

F.S



B.S



## 製作にあたって

私はよく気分転換に街へ出たり、公園へ行ったりするのですが、季節が藤がきれいに咲いていて、藤の花をテキスタイルに落とし込もうと思いました。藤の花は一つ一つの花びらは小さいけれど、密集することによって油絵の点描画のように見えたりして、アート感を感じました。この点描画のイメージでテキスタイルにしたら、素敵なガーメントが出来ると思います。藤のふっくらとしたイメージをスピンドルシルエットに落とし込み、アーティスティックな印象のワンピースを作製したいです。テキスタイルは、全体を薄い紫にし、花の凹凸感を糸のループで表現させたいです。また、つるの部分ストライプで表現し、緑も引き立つようなテキスタイルにしたいです。デザインは、花びらのくるんとした部分を袖に落とし込み、藤のふっくらした形をベグトップのシルエットで表現しました。特に紫は色の明度、彩度、色相によってミセスにもヤングにも変化する難しい色ですので、あくまでもヤングのイメージを保ったテキスタイルにしたいです。色には特にこだわりを持って製作したいです。

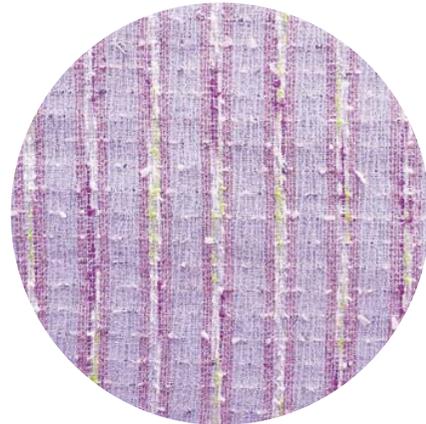


## 当初のイメージと製作した素材との比較

イメージとあまり違いはなく、想像に近いものができました。素材が思っていたより薄くなってしまいました。楊柳機でしなやかに垂れさがる藤をイメージできてよかったです。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

経糸だけの時と、緯糸を打ち込んだ時では、色合いがかなり変化することがわかりました。



Bb54%、N25%、W21%

タイトル  
【雀色時】

F.S



B.S



## 製作にあたって

私たちにとってなじみ深い鳥であるスズメは、昔から多くのことわざやたとえ話に用いられてきました。「雀の小躍り」「雀の涙」など、びよこびよことした動きや体の小ささを使ったものが多いなかに「雀色時」という言葉があります。夕暮れ時、空がうす暗く橙色に染まる時分を指したものです。その言葉を知ってから、雀に対する印象はがらりと変わったように思います。羽が光を乱反射させて、赤茶だけでない色を含み、スズメの羽色は更に深みを増します。人の側で暮らし、多彩な囀りを持ち、小さな身を寄せ合う姿は可愛いものですが、それだけではありません。単一ではない色の美しさを生地に落とし込みたいと考えています。羽毛特有のなめらかさと小鳥の持つあたたかさを、保湿性の高いワールで表現し、肌に触れるとあたたかくなるような生地に仕上げたいです。格子柄は柔らかい糸を使ったなめらかな肌触りの部分と、毛足の長くもこもことした糸で織った部分の交互にして凹凸を作り、単一でない色合いを表現するために多色糸を織り込みたいです。冬のふくらんだ雀のようなボンチョに仕上げたいと考えています。

Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

最初は、二重織で組むことを考えていましたが、重ねず綾のみでランダムな色配置をすることができました。大体のイメージは当初のもの通りです。ただ、色はもう少し濃くしたかったです。思ったより厚地で重みのある布になりました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

模様と無地の切り替えが難しいこと、起毛加工を施すと想像以上に色が混ざってしまうことは初めて知りました。自分ではない誰かにアイデア・イメージを伝えることがとても難しく、もっと講師のお二人と話せばよりいい生地になったのではないかと反省しています。



W81%、Alp14%、N5%

●協力/川出毛織工場、(株)ソトー、茶仙染工(株)

(順不同)

●協力/(株)ソトー、泰平商会(株)、茶仙染工(株)、レマン(株)

(順不同)

## タイトル 【budgerigar】

F.S



### 製作にあたって

モチーフは、セキセイインコです。冬になると、鳥みたいふわふわしたあつたが羽毛が欲しいと思い、このモチーフにしました。セキセイインコは、ふわふわした羽毛が鮮やかな色をしているので、着る人、見る人を暖かくしてくれるだろうと思いました。上に羽織っているボンチョはワールで羽毛みたいにふわふわと暖かさを表現したいです。生地は厚めで、柄はセキセイインコの後姿みたいになだらかな山がつらなり、1枚1枚の羽をイメージしたいです。色は黄色が主体で、黒の上に黄緑から黄へと色を混ぜたいです。中のノースリーブワンピースは上のボンチョが厚めなので、部分的に光沢感のある糸を使って、薄手で手触りが良いものに使いたいです。色は上から黄緑から青へのグラデーションで表現したいです。



B.S

### 当初のイメージと製作した素材との比較

①当初のイメージでは、上から下にかけて、黄緑から青へのグラデーションでしたが、もう1つの素材を目立たせる為にトーンを落とし、落ち着いた色合いの尾羽を表現しました。②最初に考えていた素材では平面的で、立体感がなかったのですが、打ち合わせをし、実際の素材で、切った糸を加工することで1つ1つの羽の立体感が出ました。

### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

①ワンピースをつくるにあたり、ストレッチを入れていたので、グラデーションの入れ方などが決まらず、講師の方と何度も打ち合わせをしました。②糸を加工するために、ワールを切るのに苦労しました。繋がる糸を切り、加工することにより、羽の柔らかい雰囲気を出すことができました。

●協力/ 鶴飼毛織、大倉染工、三星染整(株)  
(順不同)

①W93%、N6%、Cu0.5%、Pe0.5% ②W92%、N8%

## タイトル 【重なり】

F.S

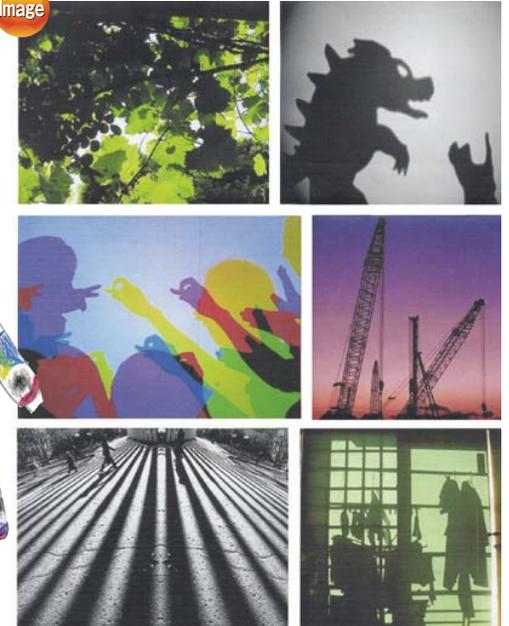


B.S

### 製作にあたって

私は今回影に注目し、テキスタイルデザインにおとし込みました。今まで白と黒でつくられたシルエット模様のデザインはあっても、影の重なってはっきりとしている雰囲気やぼやけた雰囲気、又、遊び心のある色が使われたデザインは今までにないものだと思います。影はうつしだされた影が模様になる場合と影をつくり出す物体が模様になる場合があり、また拡大されたり様々な動きを見せるのが面白いと思います。素材に落とすし込み際には影の平面的な表情は残し、パターン状の展開で影のゆがみを表現できたらと考えています。糸は太めのものをつかい、秋冬ものの布、さらに少し起毛した布ができればと思います。

Image



### 当初のイメージと製作した素材との比較

最初にイメージしたものが色数が多く、混色をテーマとしていたので意匠糸を使ったことでデザインしたものより多色に見える。

### 新たな発見や学んだ点、苦労した点

型紙の送りについてあまり知らなかったので自分のデザインを講師の方に伝えることが難しかった。

●協力/ (有)アサヒ紋工所、岩田健毛織(株)、(株)川甚、丸清燃糸、みづほ興業(株) (順不同)

W55%、Pe28%、C10%、N5%、R2%

タイトル  
【さび】

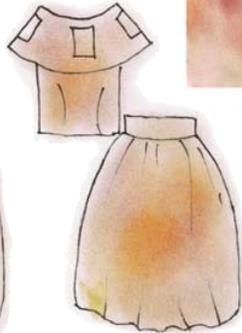
F.S



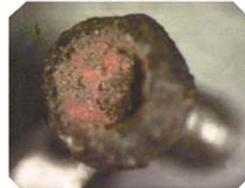
## 製作にあたって

私がイメージしているのは「サビ」です。毎日生活している中で、ふと見てみるとささまなところがサビていました。サビは汚いというイメージがありましたが、時間が流れていた証だと感じました。そこで、尾州の特産であるウールを主につかい、やさしい感じにしたいです。また、生地には凹凸をつけられたらいいなと思っています。秋冬物のイメージなので生地は厚手をイメージしています。糸は太さや種類の違うものを混ぜたら均一感がなくなるかなと思います。色や柄も規則的でなく、ごちゃごちゃな感じにしたいです。月日が経ったあたたかさを表現できたらいいです。

B.S



Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

イメージ以上のものができました。サビ感がしっかりとでていてとても気に入っています。色はイメージどおりです。触り心地は凹凸がついているのですが、凹凸がもう少し大きくてもよかったかなと思います。でも、全体的にとっても満足しています。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

何もかもが初めての体験でした。かすり染めのあと、さらに色を加えることで、こんなににも色に深みがでるのだと知りました。また、今回は、自分で手染めをさせていただきました。最初思うように色が入りませんでした。また、大きな布に筆で色をおいていくのは大変でした。生地をつくるのは私が思っていた以上に大変で時間がかかるものだとわかりました。

●協力/日本化繊(株)、尾泉染色(株)、丸金繊維(株)、山勝染工(株) (順不同)

W78%、Pe13%、N7%、Pu2%

タイトル  
【折り紙】

F.S



B.S



## 製作にあたって

折り紙をイメージしました。私は折り紙が好きで小さい頃から折り紙で遊んでいました。日本の伝統技法である折るというものを布にしてみたいと思いました。また、尾州産地の特長である毛織物を折り紙のように折り線をつけ加工したいと思っています。折り紙のようにはりのある質感と毛織物のふんわりやわらかいウールの質感が融合した作品にしたいと考えています。カラーは春夏にふさわしい草木染めのような淡いカラーを配色にしました。

Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

折り紙を表すためにプリーツ加工のように折り線をつけるつもりでしたが、川村先生の技術やアイデアにより、糸の素材や特徴を変えることでバリっとした質感になり、イメージしていたよりもはるかに良い布ができたので驚きました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

1つの布を製作するのにいろんな人の手が関わっていることを知ってすごいなと思いました。実際にそれぞれの工程の工場を見学させていただいて、とても感動しました。布に関しては、裏を切るのが大変でしたが、自分の好きな色に手染めができてとても楽しかったです。

●協力/後藤惣二ツト(株)、日本化繊(株)、尾泉染色(株)、山勝染工(株) (順不同)

Pe48%、W42%、ラメ10%

タイトル  
【木漏れ日】

F.S



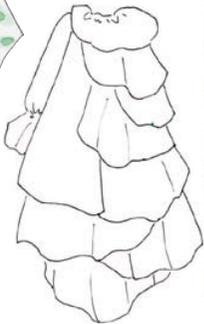
## 製作にあたって

公園を歩いているとき、上を見上げたら、木々が風にゆられて葉の隙間から見える光がとてもきれいだったので、木漏れ日をテーマにしようと考えました。生地イメージは、薄くて柔らかな肌触りにし、萌黄色、若草色、モスグリーンなど緑を基調とした色を使うことで、葉に光があたって明るい緑色になっている所と葉が重なり合って濃い緑色になっている所を表現したいと思っています。糸はふわふわした肌触りのスラブヤーンやリングヤーンなど、糸の太さを不均一にすることで、葉が密集している所と、そうでない所を表現し、でこぼこした素材にしたいと考えています。葉っぱの間から漏れ出す光に見立て、細い銀色のフィルムを織り込みたいと思っています。光の白と葉の緑を遠くから見たときでもコントラストがはっきりと分かるようにしたいです。

Image



B.S



## 当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージだと、レース素材の様な柔らかくふわふわした素材をイメージしていましたが、実際に織り上がった素材は、からみ織にすることで、夏らしく涼しい感じに仕上がりました。糸をかすり染めにしたことで白と緑のコントラストがはっきり出たのでよかったです。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

私は、からみ織りについての知識がなく、どんな服に使われている素材なのかわかりませんでした。なので、からみ織りの工場へ行き、実際に織機が動いているところを見て、少しでも仕組みを理解することが出来てよかったです。

●協力/ (株)ソトー、茶仙染工(株)、レマン(株)  
(順不同)

R46%、N30%、Si12%、C12%

タイトル  
【晴と雨】

F.S



## 製作にあたって

《晴れの生地》1色の経糸(薄橙)に対し緯糸は橙、黄、白の3色を使用し、ほかほかと暖かく優しい太陽の様なイメージでふわわりと暖かい手触りのファンシーツイードの様な生地にしたいです。3色の緯糸は、橙、黄、白の順で太い→細いと太さを変え「晴れ」のお天気マークをジャガード織りで表現したいです。《雨の生地》1色の経糸(水色)に対し、緯糸は青、白、透明の3色を使用し、水の透明感を感じる繊細なイメージでさらっと涼しげなレースより密度が高く、メッシュより少し密度が低い様な生地にしたいです。3色の緯糸は青、透明、白の順で太い→細いと太さを変え「雨」のお天気マークをジャガード織りで表現したいです。以上2種《晴れの生地》と《雨の生地》をWフェイス仕様にして頂きたいと思います。

B.S



(晴れの生地)

晴れた暖かい日の太陽の様な  
ふわわりと優しい手触りの  
生地。  
「晴れ」マークをジャガードで表現。  
ファンシーツイードの様な生地。



(雨の生地)

水の透明感を感じさせる  
繊細でさらっと涼しい  
生地。  
「雨」マークをジャガードで表現。  
レースより密度が高く  
メッシュより密度が低い様な生地。



爽やかな朝と  
高き、穏やかな  
夕日の光を  
イメージして



以上2種の生地(晴れの生地・雨の生地)を  
Wフェイス仕様にて170cm幅。  
(72cm幅)

## 当初のイメージと製作した素材との比較

当初イメージしていた傘の柄を、一定の向きで配置するのではなく、ランダムな向きでの配置に変えた事でバランスが良くなりました。風合いも表と裏で異なりイメージ通りとなりました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

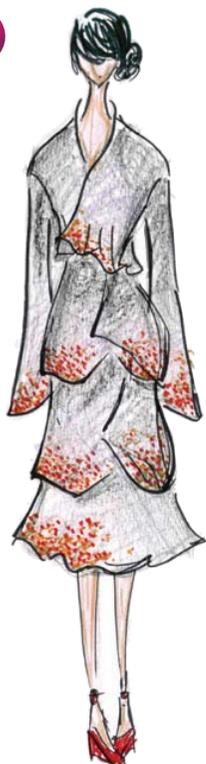
単純にリバーシブルといっても、布としての重みを考えなくてはならない事を教えて頂き、使用する糸の太さを考える重要さを学びました。

●協力/ (有)アサヒ織工所、中隆毛織(株)、(有)レナード  
(順不同)

W51%、R17%、N9%、Si8%、Pe6%、An3%、C3%、Ag3%

タイトル  
【華の顔】

F.S



## 製作にあたって

花を使ったアート作品より、花びらと光で作られる陰影のグラデーションに着目した。黒地に赤をメインとした数種類の色にじんできていくイメージを生地のデザインに用い、花びらの赤い部分と地の黒の質感に変化を出したい。糸の種類を変える事で、生地表面の立体感を表現したい。そして、わざとほつれさせたり、製織の過程で生地に残る糸を用いて、色のにじみを表現したい。

B.S



Jacard skirt  
花びらの重なりイメージ。

Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

(柄)当初のイメージとは大差なく、あらいイメージだったのが、とてもきれいな柄になったような感じです。肉厚も、求めていたもので、仕上がりはとても満足しています。(無地)1回目のミーティングの時に説明例として用いた、ファンシージャガードやほつれといったものとは全く違うきれいな生地になりましたが、想像よりきれいにまとまったかなと感じています。肉厚も、理想どおりです。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

生機を少しいただいて、仕上がりの加工を試していたのですが、同じ生地でも方法しだいで、表現が異なって見える事におどろきました。(柄)無地でも、ただ黒で真っ平らなのは嫌で、講師の岩田さんとも話をして、柄の生地にも用いた凹凸を無地にも用いました。白っぽい黒が入ったおかげで、無地にも表情が出て、使用する糸の重要性を学びました。

●協力/(有)アサヒ紋工所、岩田健毛織(株)、(株)川基、丸清染糸、みづほ興業(株) (順不同)

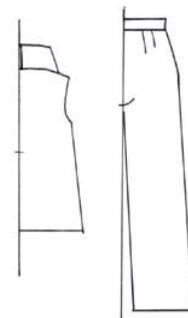
W66%、Pe28%、N6%

タイトル  
【木】

F.S



B.S



## 製作にあたって

「木」をモチーフにデザインしました。何百年、何千年と自然の厳しさに耐え抜き、そびえ立つ木からは、力強さと優しさを感じられます。なので、服のデザインは木々の力強さと優しさから連想した「かっこいい女性」をイメージしています。生地は古い杉の木々の幹のように、線を刻んだような凹凸のあるストライプを考えており、できるだけたくさんの色の糸を使用し、自然な色味、質感を表現したいです。素材はポリウレームのあるもので、生地を耳のように使えたら良いなども考えています。木に直接触っているような、凹凸のある生地ができればと思います。

Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

当初は柄が不規則に並んでいるイメージでしたが、出来上がった生地は規則的なストライプに仕上がりました。しかし、たくさん色を使って頂き、加工による凹凸も出てイメージ通りの木のテクスチャが表現できました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

イメージの生地を作るために、加工を施して縦方向に凹凸を出す方法を提案して頂きました。織り上がった後の加工の工程の重要性を教わりました。

●協力/(有)アルドレー、(株)ソトー (順不同)

W100%

タイトル  
【アニマル】

F.S



## 製作にあたって

素材はウールでブークレやアストラカンのような素材。表面が輪っかやカールをしている。カールした表面に大きいカールと小さいカールで段差をつくる。糸は太い糸と細い糸で密度の高い所、低い所をつける。最後にトラの様なイメージマップの模様をつける。

イメージの写真



Image

イメージの写真



B.S



イメージの柄



イメージ素材

## 当初のイメージと製作した素材との比較

最初自分が描いたデザイン画のイメージよりさらに猫のイメージに近い布地になりました。毛並み感もイメージ以上でした。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

1つ1つの工程に色々な方が携わっており、その1つ1つが本当に驚く程、繊細でいつも感動しました。



W85%.N8%.Alp7%

タイトル  
【月光】

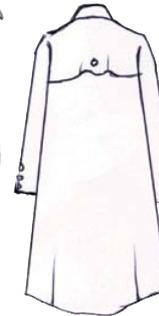
F.S



## 製作にあたって

イメージは「月・月光」です。包み込まれるような温かさと、柔らかな光を伝えたいです。ウールの柔らかな素材感を活かして、月・月光を表現していきたいです。温もりと、柔らかさが感じられるよう落ち感があり、ドレープの出しやすいものをイメージしています。カラーイメージは、生成りのような温かみと自然を感じることできるカラー。月の表面(クレーター)のように「斑模様(まだらもよう)」にしたいと考えます。緯糸を随所に入れて替え織ることにより斑模様を表現することが出来ればと思っています。パターンイメージとして、表面にランダムな凹凸を持たせたいと考えています。

B.S



Image



## 当初のイメージと製作した素材との比較

全体に凹凸を持たせ斑な色合いをイメージしておりましたが、織り組織を変えること、縮絨を施すことにより凹凸を持たせました。斑な色合いにおいては、色の異なるアルパカ糸を入れることにより表現しました。また、緯糸にラメ糸を入れることにより、月らしさを一層強く出すことができました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

マテリアルセンターで、テキスタイルのサンプルを見せて頂き多くの表現方法があることにとても驚きました。工場見学や製作工程を見学させて頂き尾州産地の魅力を感じることが出来ました。



W95%.Alp4%.Pe1%

●協力/KYOTO TEX(株)、(株)ノトー、東和毛織(株)、丸清然糸、四葉織房(有) (順不同)

●協力/春日井毛織(株)、サンファインウール(株)、(株)ノトー、東和毛織(株) (順不同)

タイトル  
【肉食系女子】

F.S



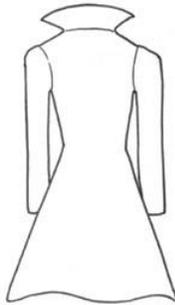
## 製作にあたって

「肉食系女子」をテーマとし、現代に生きるカッコ美しい女性をコンセプトとしています。刺しの入った霜降り肉のような生地に仕上げ、肉を纏っている様なコートに仕上げたいと思っています。生地、糸のイメージとして、柄を単純に作るのではなく、糸の太さ、織り方、編み方の変化で不規則的な肉の霜降り感を出したいと考えています。また、平面的でなく、凹凸感も同時に出したいです。太さが一定でなく、太い所も細い所もあるような赤い糸をベースとして織り(編み)、白く見せたい肉の刺しの部分は白い糸を混ぜて織ります。(編みます。)そうすることで、ボコボコした糸によって、立体感、表情感が生まれます。糸自体の色を所々で変える事で、不規則で、よりリアルな霜降り感がでるのではないのでしょうか?そして太さのある糸をベースとして使用することで、生地自体に厚みがでて重衣料である秋冬物のコートにも対応できるものが完成する。と考えました。紡績～製織まで一環して同じ地域でやっている尾州だからこそ、糸の太さや、織り方、編み方など、様々な可能性を探れるのではと思いました。

Image



B.S



## 当初のイメージと製作した素材との比較

最初、生地ができて上がるイメージの時、肉の刺し部分は、白い糸で表現されるものと思っていましたが、実際の製作では、一本の糸を白を含む5色に染め分け、その白の部分を刺しに見せるという手法でした。自分の想像と全く違いとても勉強になりました。

## 新たな発見や学んだ点、苦労した点

生地についてほとんど何も知らなかった自分が、今回の製作で、紡績・染色・織り・整理など、多くの事を吸収できました。染めや織りなどは、始まるまでの準備が一番大変であり、重要であることを知りました。今回は初めてのことでばかりで、常に受身だったので、次回このような機会があれば自ら、意見、発言をできるようにになりたいと感じました。

●協力/川出毛織工場、(株)ソトー、茶仙染工(株)

(順不同)



W100%